

シニア記者が目撃した不祥事・トピックス（6月中旬～7月中旬）

「👁️」は注目すべき・見逃せない案件、「喝！」はけしからん・憤りを覚える案件

※はコメントを記載

日付	ニュースの概要 2/21～	江口	大澤	千葉	佃	山下
6/15 ～	産総研の中国籍研究員が逮捕 容疑は中国企業への技術漏洩	👁️				
6/20 ～	三栄建築設計に異例の暴排勧告 暴力団組長に金銭供与で社長辞任			喝！		
6/22 ～	西武池袋本店改装案が物議醸す 労組スト権確立し先行き見えず	👁️				
6/22 ～	米連邦取引委がアマゾンを提訴 プライム有料会員に不当に誘導			👁️ ※		
6/24 ～	モバイル Suica でチャージできず JR 東日本でシステムトラブル				喝！ ※	
6/28 ～	国税庁がタワマン相続に税の網 評価額上げ過度な節税に歯止め			👁️		
6/29 ～	空港施設の乗田社長が再任否決 大株主の JAL、ANA が刷新要求		👁️			
6/30 ～	警視庁警部補が「捏造」と証言 大川原化工機事件で違法捜査か		喝！ ※			喝！
7/4 ～	IAEA が処理水海洋放出にお墨付き 「国際基準に合致」と報告書提出		👁️			
7/4 ～	名古屋港コンテナ積み降ろしが停止 港湾システムにランサムウェア				👁️	
7/7 ～	海外パビリオンの建設申請「ゼロ」 関西万博が開幕間に合わぬ恐れも			👁️	👁️	
7/7 ～	ビッグモーターが事故車修理で不正 故意に傷つけ水増し請求、損保は？	喝！	喝！	喝！	喝！	喝！
7/10 ～	23 上半期の中小企業倒産が急増 コロナ禍支援終わり向かい風強烈					👁️ ※
7/14 ～	「イプシロン S」の燃焼試験で爆発 JAXA 打ち上げ失敗に続き事態深刻	👁️				👁️
7/19 ～	デジタル庁への立ち入り検査開始 個人情報保護委がマイナ管理で	喝！	👁️			👁️
	MLB で日本人選手の活躍続く 大谷、吉田、ダル、菊池、千賀…				👁️ ※	

●米取引委、Amazon 提訴 プライム会員「同意なく登録」

■不祥事・トピックスデータ 千葉 利宏の“目”

【シニア記者が注目した不祥事・トピックス 6/22～ 米連邦取引委がプライム有料会員に不当誘導でアマゾン提訴】

米連邦取引委員会（FTC）が6月21日、米アマゾン・ドット・コムを不当な手法で消費者を有料会員に誘導していたとして提訴した。有料会員サービス「アマゾンプライム」で顧客の同意なく登録させようとしたほか、解約手続きも意図的に複雑な仕組みになっていると訴えた。このニュースを取り上げたのは筆者自身、FTC が主張するような体験をしたことがあったからだ。

■アマゾンプライム会員を解約して判ったこと

約3年前に日本で起こった Amazon プライム解約騒動を覚えているだろうか。アマゾンプライムのテレビ CM に、国際政治学者の三浦瑠麗氏が出演したことで、アマゾンプライムの会員契約を解約する動きが発生。日刊ゲンダイデジタルによると、2020年8月17日には「#Amazon プライム解約運動」がツイッタートレンドの1位になる事態になった。

この時に筆者も「なぜ、Amazon Japan は三浦氏のような好き嫌いが明確に分かれそうな人を CM に起用したんだろうか」と不思議に思った。今になってみれば、三浦氏は夫に関係したスキャンダルでテレビから姿を消してしまったわけで、企業としては CM に誰を起用するかは慎重に選ぶ必要がということか。

筆者も、この騒動をキッカケにアマゾンプライムを解約したのだが、別に三浦氏の CM 起用に抗議しようと思ったわけではない。この時に、「そう言えば、いつ自分はプライム会員になったのだろうか」と振り返ってみて、本人がほとんど自覚せずに「いつの間にか、プライム会員になっていた」ことに思い当たったからだ。

もともと Amazon で買っていたのは本ぐらいで、普段はでるだけ本は本屋で買うので、利用頻度も少なかった。「考えてみたら、ほとんどサービスも利用しないのにプライム会員で月額500円を払うのはもったいない」と思って解約することにした。

さっそく解約作業を始めて驚いたのが、手続きの判りにくさ。あちらこちらクリックしても、解約手続きのページに辿り着かない。しばらく悪戦苦闘して、ようやく解約できたが、正直言って「何と、不親切な！」とかなり憤慨した。この時の解約騒動でどれくらいの解約者が出たのかは明らかではないが、解約手続きが分かりにくいという書き込みを結

構見かけたので筆者と同じような体験をした人は他にもいたようだ。

それから3年、Amazonで購入したのは、中古本が1冊だけ。その後はほとんど利用していないので、最近のAmazonのサービスが3年前と変わっているのかどうかは分からないが、米国ではFTCが提訴したというので驚いた。記事によると、アマゾン側は提訴に反論しており、果たしてFTCの主張が正しいかどうかは分からないが、米国でも私と似た体験をした消費者がいまだに多いのだろう。

■増え続けるサブスクサービスを賢く利用するには？

インターネットでは、様々なサブスクリプションサービスが提供されるようになってきた。筆者は新聞を紙で読むようにしているが、ネット配信の有料記事も増えてきたので、オンライン購読も利用するようになった。このほかに、テレビ会議の有料サービス、クラウドのストレージサービス、セカンドメールサービス、ブログ利用サービスなど気が付けば、毎月、様々なサブスクサービスの利用料金がクレジットカードから引き落とされている。

これらの利用料金は1つ1つを取ってみると、それほど高額ではない。アマゾンのプライム料金が引き落とされるようになった時も「いつ会員になったんだろう」と疑問に思いつつ「月額500円なら使ってみて、必要ないと思えば止めればいい」と放置。そのままズルズルと料金を払い続けていた。

3年前のツイッターの「#Amazonプライム解約運動」を見なければ、今もプライム料金を払い続けていたかもしれない。もちろんネットショッピングは今も利用しているが、プライム会員を解約して別に不便は感じていない。消費者としては、面倒でも定期的にサブスクサービスの見直しを行うことが必要なのだろう。

ただ、サブスクサービスを見直すのは手間がかかるし、変更手続きなども面倒だ。できれば家計のキャッシュフローを診断して、無駄なサブスクサービスを検出し、より効率的なサービスを提案してくれるAIサービスがあれば便利かも。おカネの使い方を自分で考えなくなるのも問題かもしれないが…。(千葉)

モバイル Suica でもシステムトラブル

原因は電源工事マニュアルの間違いというオソマツ

■不祥事・トピックスデータ 佃 均の“目”

【シニア記者が注目した不祥事・トピックス 6/24～ JR 東のシステムトラブルでモバイル Suica 使えず】

影響システム	復旧した時間害	障害時間帯に提供できなかったサービス	障害時間帯においても、提供できたサービス
JR東日本ウェブシステム (ホームページ)	6:33復旧	・JR東日本ホームページの閲覧不可	なし
ビューカードシステム	9:20復旧	・JR東日本のみどりの窓口、券売機、エキナカ、駅ビルの店舗等でのクレジット決済	・市中のビューカード決済
モバイルSuicaシステム	12:44復旧	・モバイルSuicaアプリの利用 (入金チャージ、定期券・Suicaグリーン券購入、クレジットカード登録操作等)	・既に入金済のチャージによるSuica決済 ・券売機等での現金による入金チャージ ・モバイルSuica以外のSuicaカードについては、ほぼ全てのサービスが提供可能
えきねっと・旅行業システム	12:50復旧	・えきねっと、JR東日本びゅうダイナミックレールパックでの新規予約/乗車変更 ^(※1) /払戻し操作	・えきねっと、JR東日本びゅうダイナミックレールパックで既に予約済の、きっぷ、商品の発券及びチケットレスサービスの利用 ^(※2)

システムトラブルが発生したのは、6月24日でした。

JR 東日本の発表によると、システムトラブルは同日深夜の 0：37 分に発生し、①同社のホームページ (06：33 復旧)、②ビューカードによるクレジット決済 (みどりの窓口、エキナカ・駅ビル内店舗：09：20 復旧)、③モバイル Suica の利用 (入金チャージ、定期券・グリーン券の購入、クレジットカード登録操作等：午後 12：44 復旧)、④えきねっと・旅行業システム (えきねっと・JR 東日本びゅうダイナミックレールパックでの新規予約、乗車変更、払い戻し操作) が使えなくなったといいます＝**上表**＝。

通勤ラッシュの大混乱が発生しなかったのは土曜日だったためですし、多くの店が開店する午前 10 時までには決済機能が回復したのもラッキーでした。とはいえ、没落傾向が顕著な当国が、世界に誇り得る IT システムのトラブルは、関係者に大きな衝撃を与えたと推測されます。

■配電盤「NO.4」か「NO.6」か 現場は正しく間違えた

何と言っても Suica システムは、みずほ銀行の ATM トラブルやマイナンバー・システムのサーバーダウン、住民票の別人情報出力などが起こるたびに、「例えば Suica のシステムでは……」と比較されてきました。全国銀行データ通信システムと並んで、IT 関連では「日本ってスゴイ」の代表格とあっていいでしょう。

それがトラブル。

2 日後の 26 日に JR 東日本が明らかにした原因は、「屋内の電源工事にあたって、計画と異なるブレーカーを「切」としたことにより、システムサーバーへの電源供給が停止」し

たこととあります。以下（原文まま）、「夜間処理中のシステムへの電源供給が停止となったことから、ハード故障やデータ不整合が生じ」「サーバ電源の再投入、ハードウェアの健全性確認を行った後、電源供給停止時に実行されていた処理の再実行やデータの整合性を確認した上でサービス提供を開始としたことから、お客さまに影響が発生しました」というのです。

ああだこうだとゴタクを並べ立てていますが、結論をいうと、作業手順書に誤りがあったこと、作業時にその誤りに気がつかなかったことの2点に尽きるようです。具体的に言うと、「盤 NO.6 (VC6) 内のブレーカーを「切」にする」とすべきところ、手順書には「盤 NO.6 (CV4)」と書いてありました。作業した人は CV4=盤 NO.4 のブレーカーを「切」にしたのです。

操作に際してマニュアルの誤りに気がつかなかったからといって、作業の実務を担当した人たちを責めることはできません。盤 NO.6 か盤 NO.4 か、どちらが正しいのか確認すべきだった、というのは結果論です。現場がマニュアルを無視することは、平常時は「あってはならない」のです。作業の実務者は「正しく間違っただけ」にすぎません。

■ 「たかが」の裏に透けて見える日常的な組織問題

——たかがそれだけのことじゃないか。

という擁護論が聞こえてきそうです。

なるほど「たかが」です。

「たかが」ですが「とほほ」でもあるのです。

そもそも操作手順書が間違っていて、それに誰も気がつかなかったというのは、杜撰の一言に尽きるでしょう。厳密に行われているはずの配電設備設計図から手順書を起こした人は、何をどう読み取ったのでしょうか。また、送電を遮断するメンテナンスがこれまでに何度か実施されていたのなら、訂正されていて然るべきです。

しかし JR 東日本の説明は「現場の作業員が間違えちゃったんだよ、ごめんごめん」と言っているように見えてしまいます。マイナスマンエラー情報紐付け問題における政府説明「ヒューマン・エラー」と同じように、事態を軽視しているのか、と腹立たしく受け取った人も少なくないのではないのでしょうか。

JR 東日本が説明すべきだったのは、なぜ操作マニュアルの間違いが放置されていたのか、ということです。「操作手順書の作成段階におけるチェック体制を強化します」と言うのですが、コトはそれで済むとは思われません。

指摘されるのは、システム設定者、マニュアル作成者、運用担当者、作業の実務者が縦割り、部門間での情報共有や相互チェックが不十分だった、ということです。お役所のように、部門間の上下関係が付度を派生させているとも受け取れます。IT 業界特有の多重受発注（下請け）構造が云々されるかもしれません。

そんなことで社会インフラを担うシステムが動かなくなるとは困るのです。世界に誇り

うる数少ない先端的なシステムが、そのようなことで崩れてしまっては困ります。

東日本大震災のとき、JR 東日本が男鹿半島に埋設していた独自の地震計が巨大な地震が発生したことを P 波で捕え、東北エリアの鉄道への送電を遮断しました。約 100 か所の高架橋柱が破損したものの、走行していた 26 本の新幹線は 1 本も脱線せず、乗客・乗員は全員無事という奇跡があったのですが、震災の陰に隠れてあまり知られていません。

——JR ってスゲー……。

を堅持してください。(佃)

●国民の信頼を裏切る重大証言だ

■不祥事・トピックスデータ 大澤 賢の“目”

【シニア記者が注目した不祥事・トピックス 6/30～ 大川原化工機事件で、警視庁警部補が「捏造」と証言】

筆者はずっと経済記者だったが、オレオレ詐欺の防止からロッキード事件、リクルート事件など巨悪を懲らしめる警察・検察には、密かな信頼を寄せてきた。実際、助けられたことがある。2013 年暮れ、資料の入ったバッグを盗まれた。すぐに丸の内警察署に届け出たところ、4 ヶ月後に犯人逮捕となった。日本の警察力の高さに感激し、小さな事件でも真剣に取り組んでくれた警察に感謝したものだ。

ところが今度の捏造証言は、捜査した現職警察官が裁判所内で発言したもので、まさに驚天動地の大事件。捏造とは「無いことをあるように偽って作り上げること。でっち上げ」(国語辞典)であり、裁判官からの質問にその事実をあっさりと認めたことは、警察の信頼を根底から覆しかねない衝撃を社会に与えた。

●完全無実だった大川原化工機

事態のあらましを簡単に整理する。警視庁公安部は 2020 年 3 月、生物兵器への転用が可能な「噴霧乾燥機」を無許可で中国に輸出したとして、大川原化工機(横浜市都筑区)の大川原正明社長ら 3 人を外国為替及び外国貿易法(外為法)違反容疑で逮捕、東京地検が起訴した。同年 5 月には韓国への同様の容疑で再逮捕・追起訴した。

しかし噴霧乾燥機は、輸出貿易管理令で定める規制要件(殺菌能力)がないことが判明。東京地検は「犯罪に当たるかどうか疑義が生じた」として 21 年 7 月、初公判が開かれるわずか 4 日前に起訴を取り消した。この間、大川原化工機は業績が低迷し、逮捕・勾留された同社顧問が胃がんの悪化で死亡するなど、会社側は大打撃を被った。

そこで大川原社長らは21年9月、国と東京都を相手に約5億7千万円の損害賠償を求める裁判を起こした。そして「事件は捏造」の証言が飛び出したのは、今年6月30日の東京地裁での証人尋問だった。原告側の代理人弁護士が警視庁公安部の警部補に「(事件は)でっちあげたと言われても仕方ないのでは」と質問すると、警部補は「まあ、捏造ですね」と認めたという(7/1朝日新聞)。

●原因は思い込みと出世欲?

驚くべき話だ。なぜこんな事態が起きたのか。各種報道を読み込んでいくと、最大の原因は捜査員の強い思い込みに行き着く。

そもそも事件化する前、警視庁の同社社員らに対する聴取は300回以上に達し、家宅捜索もしていた(7/20東京新聞)。逮捕前には経産省の担当者が、当該機器は「規制の対象外である可能性を何度も警視庁に伝えた」とし、警視庁の勘違いを正そうとしていたことも明らかになっている(7/6朝日新聞)。だが、捜査は強引に進められた。

逮捕後、公安部内で乾燥機の性能で追加実験の必要性を指摘し、長期勾留は必要ないとする声もあったという。だが証言した警部補は、多くの不都合な事実がありながら立件に踏み切った理由として「捜査員の個人的な欲があった」と発言。裁判官から「欲とはなにか」と問われると、「出世欲」と答えている。

一方、起訴した担当検事も「当時の判断に間違いがあったとは思わない」と強調、大川原社長に謝罪しなかった(7/6東京新聞)。

●公安委員会は再発防止策を急げ

警察・検察の捜査ミスは度々起きているが、最近では09年6月の厚生労働省雇用均等・児童家庭局長だった「村木厚子さん事件」を思い出す。大阪地検特捜部は、村木さんが昔の課長時代、障害者団体に偽の証明書を発行して不正に郵便料金を安くダイレクトメールを発送させたとして、虚偽公文書作成・同行使の容疑で逮捕した。

だが事実は一部職員の不正で、村木さんは無関係だった。10年9月大阪地裁は無罪判決を言い渡し、確定した。同時に特捜検事が証拠を改ざん・隠滅していたことが発覚、大阪地検は窮地に立たされた。164日間もの長期勾留に耐えた村木さんは直ちに復職(大臣官房付)、13年7月同省官僚トップの厚生労働事務次官に就任した。

今回の捏造証言について、各メディアは国家公安委員会及び東京都公安委員会が全容を解明し、再発法施策を確立することが喫緊の課題だと指摘している。筆者も同感だ。

警察・検察に対する信頼が揺れている。より高い倫理観と人権意識の涵養、現場と上層部との意思疎通の改善、そして捜査方法の点検など、危機感を持って取り組んでもらいたい。

☆

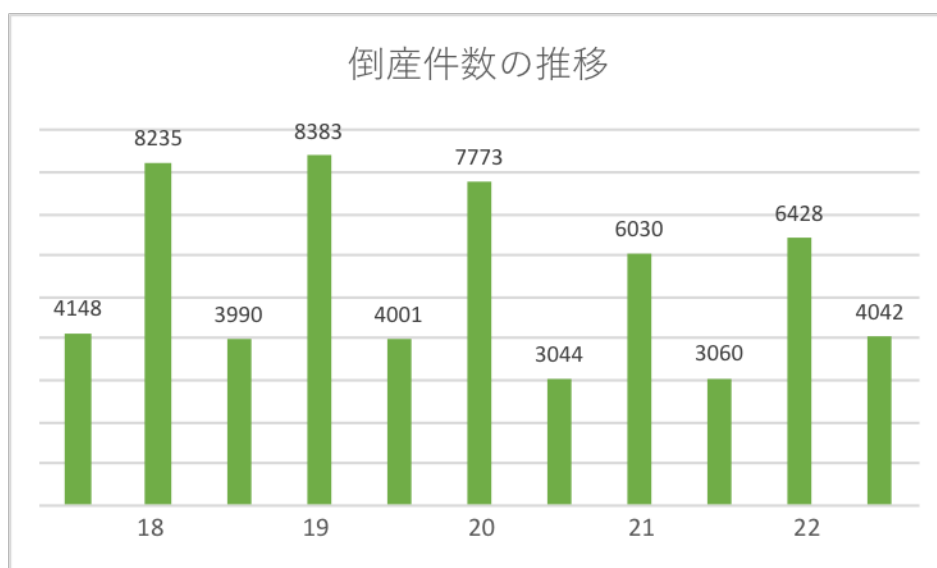
冒頭の窃盗事件では、犯人逮捕後に東京地検の検事(女性)から連絡があった。「犯人は

76歳で、軽くない認知症と盗癖がある。長男を呼び出して親の世話をしっかりしなさい、と伝えた。長男は泣いて約束した。…今回は起訴猶予とします」。犯人の経歴や健康、家族関係など緻密な捜査の様子が伺われた。報告を聞いて適切な判断だと納得した。理と情をわきまえた検察官に、感心したことを思い出す。(大澤)

●倒産・休廃業が頻発一時代のニーズに応え躍進する企業は？

■不祥事・トピックスデータ 山下 郁雄の“目”

【シニア記者が注目した不祥事・トピックス 7/10～ 2023年上半期の中小企業倒産件数が急増】



中小企業の倒産件数が増加している。補助金・特別融資をはじめとするコロナ禍対応の手厚い支援策が一区切りしたことや、人手不足、物価高が、多くの中小企業にダメージを与え存続を困難にしている。同様に休廃業・解散件数も増えており、こちらは経営者の高齢化&後継者不在が響いている。倒産・休廃業・解散が頻発するという世の流れ。そこには、その時代ならではのニーズ=ビジネスチャンスが創出される側面もあり、ニーズを捉えた企業が台頭している。

2023年上半期（1～6月）倒産件数は、前年同期の3,060件から4,042件と3割強増加した。東京商工リサーチ（TSR）が7月10日に発表した数字で、倒産増の要因として、経産省キャリア官僚が不正受給を画策するなど大きな社会問題ともなったコロナ関連の各種補助金・給付金や、ゼロゼロ融資（実質無利子・無担保）をはじめとする好条件の融資が

終了し返済が始まったことを挙げられる。また、人手不足や円高に伴うエネルギー、原材料費の高騰も強烈な向かい風となった。図表は過去 5 年半の倒産件数の推移。補助金や融資により 2021、22 年は減少したのが、コロナ禍以前の水準に戻った。補助金&融資のストップが、あたかも"ヤク切れ"の症状を引き起こした格好で、今後も高水準の倒産が続く見通しだ。

自主的に会社をたたむ「廃業」や、事業を停止し会社を休眠させる「休業」の件数も増えている。2022 年(1-12 月)の休廃業企業数は前年比 11.8%増の 49,625 件。この件数は 2020 年の 49,698 件とほぼ並び、調査開始の 2000 年以降で 2 番目の水準(以上、TSR 調べ)。TSR ではその要因を「コロナ禍の出口戦略の中で、経営の自立・自走が求められ、決断を迫られた」ことや「代表者の年齢区分は 70 代が 42.7%で最も多く、以下、80 代以上、60 代の順となり、60 代以上の構成比は過去最高を更新した。70 代以上は事業継承の時間的制約などから廃業以外の選択肢を失っている可能性がある」と分析している。

●売掛債権保証や M&A が時代のニーズに

倒産・休廃業などで企業が"多死"する時代は、時代のニーズを生みだし、ニーズを的確に捉えた企業に恩恵をもたらす。その好例として、売掛債権保証のイー・ギャランティを挙げられよう。同社が 7 月 28 日に発表した 2024 年 3 月期・第 1 四半期(2023 年 4-6 月)決算は、経常利益が前年同期比 14.7%増の 11 億 7,000 万円と同期間での過去最高を記録した。倒産件数の増加が、取引先破綻の備えとなる売掛債権保証=信用リスク保証サービスの伸びに直結している。

経営者の高齢化や後継者不在は、事業承継をいかに実現するかという課題を突きつけ、その有力な解として M&A が浮上している。中小企業庁が策定した「中小 M&A 推進計画」も追い風となって、中小 M&A 市場は拡大基調を辿っている。28 日には M&A 仲介業務を手掛ける日本 M&A センター、ストライク、M&A キャピタル、M&A 総研の株式公開 4 社がそれぞれ四半期決算を発表したが、各社の業績はおおむね好調。各社の決算短信を見ると、売り上げや利益、仲介件数で「過去最高」といった記述が散見される。

今、企業多死の時代が到来した一方で、チャット GPT に代表される生成 AI が社会の有り様とくに産業やビジネスの形態をゼロベースで再構築していく兆しを感じ取れる。「企業は環境適応業」「変化はチャンス、ピンチはチャンス」「最も強いもの、最も賢いものではなく、唯一生き残るのは変化できるもの」…。中小企業の淘汰と並行して、大規模な地殻変動が進展していくように思える。(山下)

MLB 日本人選手が大活躍

「あっぱれ」はないのか、の声にお応えしてではないのですが

■不祥事・トピックスデータ 佃 均の“目”

【シニア記者が注目した不祥事・トピックス 大谷、吉田、ダル…MLB で日本人選手の活躍続く】



ESCON フィールド（北海道・北広島市）通路のカメラスポット

社会・経済活動の不祥事ではない「番外」を入れたのは、7月初旬、訪問した北海道・北広島市の ESCON フィールドでカメラに収めた写真＝上＝を撮ったからにはほかありません。プロ野球「日本ハム・ファイターズ」のホームグラウンドではあるのですが、北海道で最も旬なスポットをファイターズガールの案内で見学してきました。

ということで、無茶振りするテーマは「米プロ野球リーグ（いわゆるメジャーリーグ：MLB）で日本人選手の活躍報道について」です。「喝！」「注目」のほかに、「あっぱれ」はないのか、という声にお応えして……ということではありません。

マイナンバーのトラブルが岸田政権の支持率を下げ、成功を喜ぶ北朝鮮に対して当国は失敗続き、車を修理に出したら壊した上で保険金過大請求、外国パビリオンの建築申請は一件もナシ等々。なぜこんなに劣化が目立つのか、本当に劣化しているのか——その考察と課題の探求は専門家にお任せして、いやいや「日本ってスゴイ」はいくらでもある、というお話です。

■打撃部門3冠王／サイ・ヤング賞／MVPも

米プロ野球リーグ（いわゆるメジャーリーグ：MLB）で日本人選手の大活躍が連日報道されています。一本足打法の王貞治選手（読売巨人軍）が現役ピーク時でさえ、なんとか大リーグで1軍に入れるかどうか、と言われた時代を知っている者としては、日本人が“紅毛碧眼”の大男と対等にやりあい、唸らせる活躍しているのは嬉しい限りです。

その筆頭は、何と言ってもロサンゼルス・エンゼルス（ナ・リーグ）の大谷翔平選手でしょう。少年野球さながらの「エースで4番」（実際はDHですが）をやっけてのけ、ばかりでなくこのままだとア・リーグ打撃部門3冠王、サイ・ヤング賞、MVPも夢ではないと言われています。

このほかにも、菊池雄星（ブルージェイズ／ア・リーグ）、鈴木誠也（カブス／ナ・リーグ）、千賀滉大（メッツ／ナ・リーグ）、ダルビッシュ有（パドレス／ナ・リーグ）、藤浪晋太郎（アスレチックス→オリオールズ／ア・リーグ）、前田健太（ツインズ／ア・リーグ）、吉田正尚（レッドソックス／ア・リーグ）、それと日本生まれではありませんが、WBC（WORLD BASEBALL CLASSIC）で一躍脚光を浴びたラズ・ヌートバー選手（セントルイス・カージナルス／ナ・リーグ）を忘れるわけにはいきません。

筆者のようなノンポリ・ミーハーが思い出すのは野茂英雄（ロサンゼルス・ドジャース）、イチロー（シアトル・マリナーズ）、松井秀樹（ニューヨーク・ヤンキース）といった選手です。雑学ながら、歴代を調べると1964年に投手として渡米した村上雅則さん（南海ホークス→サンフランシスコ・ジャイアンツ→南海ホークス→阪神タイガース→日本ハム・ファイターズ：現在は野球評論家）が最初だそうです。

■身内びいき・一点集中の近視眼的報道が外界を遮断

世界の檜舞台で日本人が活躍するニュースは、野球音痴の筆者の耳にも心地よいのですが、ときおり疑問に思うのは「これって“日本ってスゴイ”の垂れ流しじゃない？」ということです。

まず「日本ってスゴイ」については、そりゃあ各選手は懸命に取り組んでいるし、「スゴイ」からこそ活躍しているのですが、他の選手たち藤浪晋太郎（アスレチックス→オリオールズ／ア・リーグ）、前田健太はどうなのか、ほとんど報道されていません。たま〜にアーロン・ジャッジ選手が……、マイク・トラウト選手が……といった情報が付け足しのように流れるだけで、韓国や台湾の選手についてはほぼゼロ。

なるほど現時点では日本人選手がより多く活躍しているので、より大きな話題となっているのでしょう。ですが、身内びいき・一点集中の近視眼的な情報で埋め尽くされると、SNSの類は友を呼ぶ現象で外界が見えなくなってしまう。気が付いたら裸の王様、現在の「凋落日本」になりかねません。

MLBの選手たちは、時差が3時間もある大陸を移動しながらリーグ戦を繰り返している。

日本球界の一部には、それなら日本、台湾、韓国、場合によってはフィリピンを加えたアジア・リーグを創設したらどうだ、という考えもあるようです。

先の WBC で推測したのは、MLB はヨーロッパを新しい市場として狙っているのではないか、ということです。NATO 加盟国でもないのに、USA との軍事同盟を言い訳に現政権がウクライナ戦争にのめり込む危うさ——と対比するわけではありませんが、当国のメディア報道はもうちょっとアジアに目を向けていいんじゃない？ と思わないでもありません。(佃)